

福岡座禅道場俳句会十月句会結果

天 天 翡翠の青を残して飛び去りぬ (宗道)

地 地 竹箒立て掛けし戸や夕紅葉 (霊峰)

地 コンバイン轍を残す刈田かな (宗道)

人 肘当ての服を纏ひて案山子かな (霊峰)

人 水澄し里の小川の清き音 (寶州)

人 蓑虫の風にふかるるばかりかな (浄淵)

人 秋の峰とうんと響く銃の音 (霊峰)

1 むくみたる師の脚揉みつ秋夜長 (白堂) 1 19 摂心を待ちわびるかや寒椿 (無傳) 1

2 酔芙蓉素面の中に数人が (寶州) 20 水澄し里の小川の清き音 (寶州) 2

3 鬼の子の鳴きを待ちゑる座禅かな (浄淵) 21 貝殻を拾い集めて天高し (霊峰) 4

4 下枝ほど深き色なり初紅葉 (宗道) 1 22 夜勤明け花石露眩し坂の街 (浄淵) 1

5 竹箒立て掛けし戸や夕紅葉 (霊峰) 3 23 コンバイン轍を残す刈田かな (宗道) 3

6 十三夜今夜は如何に強き風 (寶州) 24 丸まりて爪先染めぬ夜寒かな (白堂) 1

7 からすうりのろい日差しに拭かれをり (真光) 25 うそ寒やくもの糸よりからまるる (真光)

8 蓑虫にやさしき風の子守唄 (浄淵) 1 26 枯れ蘆やお喋り激し群雀 (寶州) 1

9 おや足袋か支度とどのう山の宿 (白堂) 1 27 蓑虫の風にふかるるばかりかな (浄淵) 2

10 翡翠の青を残して飛び去りぬ (宗道) 4 28 小さき葉小さき露を結びをり (宗道) 1

11 寺町の屋根ならかに秋の風 (霊峰) 1 29 秋の峰とうんと響く銃の音 (霊峰) 2

12 秋空や色づく木々を際立たせ (恵美子) 30 庭木刈る心も軽く冬支度 (無傳) 1

13 秋の窓うすいあかりがあるばかり (真光)

14 手袋が恋しくなりぬペダル踏む (寶州)

15 メロンパン千切れば匂う秋の朝 (宗道) 1

16 警策の響き高らか十六夜 (白堂)

17 肘当ての服を纏ひて案山子かな (霊峰) 2

18 出掛けるに鬼の子見遣る廂かな (浄淵)

